

平成26年第4回田原市教育委員会定例会会議録

1 開会 平成26年4月10日 午後4時00分

2 閉会 平成26年4月10日 午後4時54分

3 会議に出席した委員

渡邊峰男委員長、山本明子委員、金原真人委員
横田 威委員、嶋津隆文委員

4 会議に欠席した委員

なし

5 会議に出席した職員

教育部長

前田和宏

教育部次長兼教育総務課長

中村文紀

学校教育課長

山本克仁

文化生涯学習課長

鈴木淳一

スポーツ課長

大羽耕一

図書館長

豊田高広

教育企画室長

三竹雅雄

教育企画室主任

清水綾子

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第4回定例会議事日程

日 時 平成26年4月10日(木)

16時00分

場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 報告事項
(1) 学校再編について
- 4 その他

渡邊委員長

開 会 午後4時00分

それでは定刻ですので始めます。

皆さん、こんにちは。御多用のところ御出席くださいます、ありがとうございます。

ただいまの出席委員は5名であります。定足数に達していますので、平成26年田原市教育委員会第4回定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

それでは会議規則第14条第2項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、山本委員と金原委員の御両名を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは議題に先立ち、教育長、報告事項をお願いいたします。

教育長、お願いいたします。

嶋津教育長
渡邊委員長

後で、よろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

後でということですので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日は議題がないようですので、報告事項に入りたいと思います。

事務局、始めに学校再編についての報告からお願いいたします。

報告事項

教育総務課長

それでは学校再編の動向ということで、1枚つづりのもので説明をさせていただきますと思います。

まず、緊急地域ということで伊良湖岬の3小学校でございますが、今まで、細かいほうの資料を見ていただくと、統合準備委員会4回が終わっておりまして、これから夏までには新しい小学校の候補地ということで提案しておりますのが、岬中学校の北側に用地を求めて校舎をつくっていくということを提案しております。その中でやはり委員さんから出ている意見が、中学校の部活動と小学校の陸上であるとかバスケットボールであるとかという、部活動のグラウンドの調整であったり、体育館の調整であったり、そういったものが心配であるというような意見が出ておりまして、次回の統合準備委員会では中学校の部活動と小学校の部活動の調整について、中学校側と調整をして説明をしていきたいと考えております。

通学体制の関係でございますが、スクールバスの運行経路については試走を一度いたしております。ある程度、子ども達の乗降場所については、伊良湖小校区については伊良湖市民館と日出の集会所あたり、それから堀切については堀切市民館ともう1個、小塩津の集会所ということで調整をしている段階です。農協の土地がありますので、農協の土地については借りられるというような形で交渉していきたいなど

考えています。

一番の問題は和地小学校をどこで降ろすのということだと思うのですが、国道で降ろしたり、あのあたりで借地をしてというふうを考えておりましたが、なかなかいい場所が見当たらず、和地の交差点のところに農協の元ガソリンスタンドの跡地があります。あそこが850平方メートルくらいの広場で残っておりますので、そこを借りて乗り降りの場所にしたらどうかということで、今、検討しております。若干、五、六百メートル歩くこととなりますが、そこが一番安全かなというふうなことで、あそこも農協さんの土地ですので、農協のほうにまた、これから交渉していきたいと考えております。

金原委員長
教育総務課長
金原委員長

そこは、三角の土地ですね。

そうです。

車がたくさん止まっているけど、どこかに貸しているのではないのか。

教育総務課長

貸していないです。勝手に止まっております。ですから借りようと考えています。新しい学校ができるまでですけれども、とりあえず5年間貸してもらえるような形で交渉していこうと考えております。

岬中学校でございますが、まだ8校区での協議中ということで方向性はまだ出ておりません。泉中と合わせて後で説明させていただきたいと思います。

次に先行地域の野田につきましては平成28年度から統合ということで、この前、教育委員会でも決定事項とさせていただきましたので、平成28年度統合に向けて準備をしていきたいということで、この4月中には一度、統合準備委員会を設置について検討していきたいと考えております。

次に六連小でございます。六連小については何回か校区のほうで意向調査というかアンケートを実施しております、この前、校区会長と大竹議員と要望書的なものの報告が3月にありました。その中身は田原東部小の統合なら新しい学校をつくってほしい、それから特認校制度の導入を検討してほしいということで、時期的には統合するなら平成29年から平成31年度というような形で報告書が出されております。

報告書につきましては、ここに資料として提出をさせていただきましたので、この中にはアンケートの結果についても付いておりますので、またご覧いただけたらと思います。

ということで、統合については田原東部小であるとか、神戸小であるとか、そういったことございまして、平成26年度には特認校制度の導入についての要望がありましたので、そういったものを平成26年度に検討していくということでございます。

次に検討地域、泉中でございます。中学校問題については8校区で

現在協議中でございますが、3月にアンケートを泉は全戸で実施しております。その結果が、どこに統合するかというようなアンケートでございましたけども、赤中が15.5%、福中が13.5%、野中が12.6%、田中が6%、再編の反対が14.1%というような形でアンケートの結果が出ております。こういったアンケート結果が出ておりますが、泉校区としての方向性を早めに出していただいて、8校区のほうへ結果をもって行って8校区で協議をしていただくというような形になっていこうかなというふうに考えております。

それから若戸小は昨年1度、平成26年の1月に学校を考える会を設置しております。自治会の役員、PTA等も交代しておりますので、新しいメンバーで再度開いていくということでございます。

あと大草小、南部小、高松小、亀山小、清田小については、まだ学校を考える会等が未設置でありますので校区へ働きかけをしていきたいというふうに考えております。この中で南部小が一時的に120人未満ではなくなるということがわかっておりますので、あまり設置については積極的にはどうかというところがありますが、将来的にはまた減ってきますので校区には働きかけをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

渡邊委員長

ただいま事務局の説明がありましたが、学校再編について質問等ございましたらお願いします。

山本委員

六連小ですけれども要望書が出たということで神戸小学校ならいいのか、田原東部小なら新設してほしいのか。

教育部長

報告書のコピーをつけてありますけれども、地元が考えているのは田原東部小で考えたらどうだったかという結果で報告されておりますので、神戸のことはまだ考えていないようです。ですから、これから神戸も含めて地元と話し合いを進めていきたいなと思っております。

山本委員

田原東部小はだめってことですか。

教育部長

だめというわけではなく、もし田原東部小と統合するのだったら新設してほしいという、そういう要望事項です。

山本委員

それはもう、六連小の校区の見解ですか。

教育部長

そうです。

教育総務課長

田原東部小の場所は、低いというところもあって、川沿いでありませし、そういったことも若干、六連の方は気にしているみたいです。

教育部長

ただ、田原東部小学校側からしてみると、田原東部小学校自体が既に東側にありますので、実際、田原東部小校区としての真ん中ではないのですよね。ですから逆にもっと六連寄りというのは非常に難しいかなという気がします。新設校というのはちょっと難しい話かなと思います。ただこれから地元とも話をするのですが、田原東部小だけではなくて神戸小も視野に入れながら話し合いを進めていきたいとい

渡邊委員長
山本委員
嶋津教育長

うふうに思っています。

よろしいでしょうか。

わかりました。

この資料の一番右側に全体計画案とありますが、大体このあたりで考えていくのかなと思っています。例えば、六連で言えば田原東部小又は神戸小。この辺が選択肢としてあるわけですが、なかなか新しい学校をつくることはできないので、この選択肢の中で考えていくことになると思っています。

金原委員

六連の場合、これ二つに分かれる可能性もあるのではないですか。神戸小に行くのと田原東部小に行くのと。それは考えていないのですか。

教育部長

もし地元と話をする中で、そういう意見が出てくれば、それもありえると思います。

嶋津教育長

大草小の話も出てくると思います。大草小と三つ合わせてどうするかという、そういう選択肢もあると思います。

六連校区は、平成29年から平成31年には移ってもいいよということを書いてきているわけです。ただしその前に特認校を実検させて欲しいということを書いている。時期的には、あと四、五年かかって決めても良いかと考えています。教員のことも含めて考えると。

金原委員

検討地域の泉中ですが、今の泉中から距離で言ったら赤中と福中とどっちが近いのですか。

教育総務課長

村松とかは赤羽根中が近い。

金原委員

泉中自体、中学校から考えるとどうか。

教育総務課長

中学校からだ福江中のほうが近いくらいですかね。

泉地区は地域的には広いですので、村松だとか八王子だとかは赤羽根中のほうが近いですね。

教育部長

あと石神とかそれから江比間くらいは福中のほうが近いかなと。

嶋津教育長

補足したいことを申し上げますが、今回、泉校区はいろいろ検討した結果このアンケートを行った。その結果は、赤羽根中が一番多いですが、他との数ポイントの差となっている。しかし、教育委員会のスタンスとしては、あくまでも泉校区でまず意思決定して欲しい。意見がばらばらであっても、一応どういう方向性になるかということを決めてほしいと考えている。これから働きかけて、泉校区が決まったら、どのような方向性であっても、福江と田原に分けるとか、赤羽根に行くとか、福江に行くとか、どのような結果であってもそれを渥美8校区に投げかけ、渥美8校区で渥美地域の中学校問題を議論してもらおう。そこで議論をしてもらって、その結果を教育委員会としては尊重していく考えです。

そこでまとまらない場合は、教育委員会で決めて欲しいという流れになれば、教育委員会で決めまるというプロセスになるのかなと

金原委員

思います。これから一年、もう少しかかるかなとも思っています。

教育総務課長

それからもう一点、スクールバスの件ですけど、これは、ぐるりんバスを使うのか、別の業者に委託してスクールバスにするか。

嶋津教育長

新たにスクールバスを業者に委託して運行する予定でいます。

教育総務課長が南部小の人数がふえてくると言ったのは、大久保の宅地造成で新しい建物ができてきたため、それが影響していて増えてきているものです。

教育部長

また次回、データ出しますけども、ゼロ歳児、一歳児、二歳児くらいが、もう20人とか30人近くいます。こうなってくると平成32年とか3年くらいになると120人から130人を超えてしまうような、そういう学校になるものですから、そうすると基本路線の120人を超えますから、しばらくはいいのかな。学校自体は小さいものですから、その辺は地元で考えていただきながら学校を考える会はつくってもらいたいなと思っています。

嶋津教育長

前の田原南部校区総代は、あまり賛成していなかった。住宅ができて一時的なもので、その先は減少傾向になると思います。早めに統合を考えたほうが良いと思う。

教育部長

南部校区の児童数を次回データで出します。

横田委員

スクールバスの件で、ちょっと過激発言ですけど、定期バスをやめて、豊鉄にお願いして、ぐるりんバスを全部、半島回すような。そうすれば、そんなスクールバスというのは、別業者を頼まなくてもできる可能性があるのでは。

教育部長

要するにスクールバスの変わりにぐるりんバスでですか。

横田委員

この半島全部、市内全部。定期バスが走っているから、ぐるりんバスが走れないところがあるので。

教育部長

それはありますが。

横田委員

定期バスをやめてしまえば、全てぐるりんバスが可能なのではないかな。

教育部長

今、それを検討しているのが公共交通会議という場所で、ぐるりんバスと豊鉄バス、それからいろんな公共交通機関含めて、ぐるりんバスも含めて検討しているのがそこです。なかなか本線というか、軸となる豊鉄バスをやめるというのはなかなか難しいという気がします。

軸となるバスに向かった路線でぐるりんバスを走らせるような、そんなイメージをもっていると思います。

渡邊委員長

市民のためには幹線道路を豊鉄バス本線が走っているから、今度から野田校区は野田校区だけでぐるりんバスを回さないといけなとか、田原市街地まで直接ぐるりんバスで行けなくなるとか、そういう苦情的なものを結構聞いている。だったら豊鉄バスでなく、ぐるりんバスを市内に全部回したほうが市民のためにはなると思うし、豊鉄に助成金を出しているわけだし、その方が良いという気はします。

教育部長
渡邊委員長
教育部長
渡邊委員長
教育部長

また、御意見として聞いておきます。
ぜひ、その辺を担当部署に伝えてください。
ここで決められることではないので。
関係の会議等の場で発言していただければ、市民のために。
はい。

渡邊委員長
教育部長
渡邊委員長
嶋津教育長

ことしから公共交通会議のメンバーに入った。去年までなかったが、スクールバス問題があり入ることになりました。

豊鉄バス路線があるからぐるりんバスを回せなくなったのですね。
そうです。

ほかにはどうでしょう。

今まで、緊急地域、先行地域、検討地域とやってきた。現状の課題として、泉校区の中学校問題です。それから働きかけていこうと思っています。

渡邊委員長

ほかには、よろしいでしょうか。

(「なし」と言う者あり)

渡邊委員長

質問等ないようですので、次に、その他に移ります。

その他

渡邊委員長
教育部長
スポーツ課長

その他、何かございますか。お願いします。

職員名簿をつけておきましたので、また参考にしてください。

新しくスポーツ課になった課長の太田です。よろしくお願いします。

報告事項としまして、まずトライアスロン大会ということで、大会日時が9月7日の日曜日ということで予定しています。昨年と同じAタイプ500人、Bタイプ500人、1,000人の出場選手ということで、今後のスケジュールにつきましては来週の月曜日から選手の申し込みの受付が開始されます。ボランティア合わせて、ボランティアの募集についても5月の上旬にはかけていきたいということを予定しております。

大会は例年のとおり前日の前夜祭、花火大会を含めて本大会の7日、日曜日のトライアスロン大会という予定をさせていただいております。

それからもう一点、実業団の駅伝競走につきましては、これも期日が11月16日で、9時スタートで計画をしているところであります。大会コースですが、おおむね半島を走るということなのですが、裏面を見ていただくと、今回コース変更がされております。

より安全なコースの設定で経費のかからないコース設定をということで検討をしていて、警察協議も一度、行っておりますけれども、課題事項も二、三点出てきまして、あくまで案ということで見ていただきたいものです。なるべく交差点の数を減らして、より安全なコースをということで想定をして、現在の案になっております。

例えば15番のところのサンテパーク、第四中継所のところですけど、

ここのエリアは、結局1時間くらいの時間がかかるのですが、サンテパークの利用者として入って来た人が、全くここに入っていけないということが一つ大きな課題になっておりまして、これをどうしていくのかということとコースの変更を掲げるのか、何らかの対応策をとるのか、これは警察との課題となっておりますので、これから検討していきます。

第四から第五の中継地点のエリアがコース設定がなかなか距離がとれないということで、芦ヶ池を回すような形をとりましたが、なかなかここがネックになっています。一応全体の案としては、おおむねこんな形で進めていきたいということです。

それから、追加でお配りさせていただいた資料でして、実は明日、日本トライアスロン連合、東京に事務局があるんですけど、そちらのほうに東京五輪、トライアスロン競技の事前合宿誘致ということで要望活動で教育長と一緒に出かけたいと思っています。合わせて裏面見ていただくと東京オリンピックの組織委員会というのが都庁の中にありまして、ここにも合わせて要望してこようと考えています。

トライアスロンの練習拠点としての適地性というのをしっかり説明したいと思っています。基本的には二十数回行われているトライアスロンを実施して人気のあるポイントだということで、コース的には文句ないのですが、まず温暖な気候である、それから海と陸が近い、宿泊地が整っている、それから地元のおもてなし、好意的な地域でありますよと。それからトレーニングをする体育館、陸上競技場等があると。合わせて関連スポーツ大会の実績としてもサービス、世界大会、それからぐるりんサイクリング、それから実業団駅伝というようなことで一年を通してさまざまなスポーツが繰り上げられる、この田原地区の利用ですよということをPRしていきたいと思っています。

実際にはオリンピックの合宿等の誘致で指定をしていただいて、こちらにたくさんの方が来ていただけるような要望をしていきたいと思っています。一枚後の資料に、田原市の概要、それからスイム、バイク、ランのコース、それからゴールの状況というようなことで、おもてなしであるメロンやあさり汁、それから福江校区を中心としたボランティアのホスピタリティということで、写真で紹介をさせてもらっています。

それと合わせてもう一点、オリンピックの競技の組織委員会のほうには渥美半島の花ということで、菊の花でもう一個は、もう一枚、要望書がつくってあります。これはビクトリーブーケの渥美半島マムの活用の提案ということで、裏面見てもらうとわかるのですが、オリンピックで今、表彰台に乗る人にビクトリーブーケというものを手渡すような形になっておりまして、ここに参考に載っていますフィギュアの世界選手権でも菊を使った、マムを使ったビクトリーブーケが使われ

ていたということで日本一の花の産地、菊の産地である田原市で、こういった日本一のビクトリーブーケを提供するというような形を、活用いただく提案をお願いしたいということで、このビクトリーブーケを見本として持っていきます。田原市の花もPRしながら、こういったビクトリーブーケというところで、さらにイメージアップをして、この地に誘致をしたいという趣旨で誘致活動をしてきたいと思っています。以上です。

渡邊委員長

ぜひ頑張ってきていただきたいと思います。

何か、今の件についてありますでしょうか。

金原委員

ぜひビクトリーブーケを成功させてください。

スポーツ課長

今までは輪菊というものが中心ではあったんですが、今からはこういった形でビクトリーブーケでスプレーマム等も使っていききたいと思っています。

金原委員

ぜひ協力したいと思います。

事務局

実は、今回も花材として道具は渥美の花き生産者から提供いただいています。今回はもって行くという形はとっておりますが、農水省の花弁振興室長等へ働きかけるなど、オリンピックに向けてビクトリーブーケを、花の消費拡大を図るということを、力強く宣言していきたいと考えています。

横田委員

トライアスロンの件で、今年度からスポーツ課が中心になって行方が、今まではどの部署が中心になって行っていたのですか。

スポーツ課長

商工観光課です。

横田委員

スポーツ課としてどのように行っていくのか。商工観光課と違うところは何か。

スポーツ課長

今まではスポーツや誘客ということで、宿泊客を求めた観光的なもの、観光のスポットをPRするというイベントとしての観点があった。

アマチュアな人たちが、これは償金を稼ぐとかいうものではないですから、純粹に自己研鑽と、人のつながりみたいなチームをつくって、チームで頑張ってと応援し合ったりとか、家族が応援に来てゴール付近は家族と手をつないでゴールしたりとか、子どもと一緒に手をつないでゴールしたりという姿を見ていると、スポーツのあり方というか、そういった絆をつくるものかなと思います。

これは商工観光というよりスポーツかなというようなところで、スポーツ課の件ができました。今までどおり商工観光も宿泊を含めて関与してもらいますし、観光ビューローもありますので、そういったところとも連携しながら一緒になってやっていくということで、実行委員会の中には今まで携わってきた産業振興部、それから今回は教育部ということで、両方で実行委員会のほうに関わっていくという、今はそういう考え方で進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

嶋津教育長

渥美商工会にしてみると、商工部門が担当しないと組織体制・予算等の確保に不安が残る。産業振興部と教育委員会が共同で事務局になり、地元も一緒に関ってもらう形にしている。この東京へのオリンピックの話で、教育委員会からも盛り上げられたらと考えている。

オリンピックに立候補すること、渥美半島の菊がオリンピックに立候補したみたいな形、そういうPRもしていくということで、渥美商工会やウィズ渥美等関係各者には、積極的にやりますということで、一応の理解は得ています。

渡邊委員長
学校教育課長

他に、よろしいでしょうか。

校長会の要綱を委員さんにお配りしました。本年度の学校教育に関わるものが全て載っていますのでぜひ見ておいてください。また山本委員さんのほうから生徒指導部の不登校の状況について情報がなかったという話もありますので、そこに載っていますのでお願いします。

渡邊委員長
教育部長

他にありますでしょうか。

一点、文教厚生委員会のほうから教育委員会と意見交換会をしたいということで、4月22日3時半から南庁舎6階の600会議室で行われます。内容的には意見交換会で、教育への思い、新聞記事によって意見交換をしたい、ということをおっしゃっていましたので、新聞記事もお渡ししましたので、この中から教育委員さんはどんなふうなお考えを持っているかというようなことを意見交換したいということです。よろしくをお願いします。

渡邊委員長
嶋津教育長

ありがとうございます。

文教厚生委員長さんからの資料で、朝の部活、英会話、いじめ、スマホ、教育委員会改革等いろいろな内容があったがこれを全部意見交換するのでしょうか。

教育部長
嶋津教育長

多分、この中からピックアップだと思います。

もう少し絞ったほうがいいと思います。この前聞いたのは名古屋市の中二の自殺事件。それをやるって言っていたが、資料としては盛りだくさんになっている。

教育総務課長
嶋津教育長
渡邊委員長

資料は題材にはするが、全て意見交換するわけではないと思う。

委員長、最初へ戻って自分の教育長報告をお願いします。

教育長報告をお願いします。

教育長報告

嶋津教育長

私の話と重ね合わせて申し上げておきたいのですが、文教の皆さんも教育委員会がどういうスタンスに立っているのかということ、いろんな側面から聞きたいと思っています。それはこの前出した教育改革プランに対して、委員の皆さんが、教育委員会職員が全員、十分議論してできあがったものであるのかという話があります。

教育委員会の改革については、4月4日に閣議決定がなされて方針がかたまったわけです。閣議決定がされれば国の方針に事実上、なり

ますから、あとは国会で審議となります。そういう点で意思統一をしておいていただいたほうが良いのかなと思っていることがあります。

一つは教育委員会をつぶすというのが最初の案としてあったのですが、しかしそれがなくなって、あくまで教育委員会は残すというのが前提です。それは良いことだと思っていて、国旗、国歌等、首長の判断だけで決められても、教育委員会としては困ります。そういうことを言えるためにも、教育委員会は存在したほうが良いと思っています。この前提を共通の認識としてもっていただけるとありがたいと思います。

それから、教育委員長を廃止して教育長と一本にすると。来年の4月から法施行予定で議論されています。これは、影響がとても大きいもので、その評価をどうするかということについては、自分としては、教育委員会が教育委員長と教育長が一本になるということは、物事の機動性を考えていくと、あってもいいのかなと思って、そこは容認していいと思っています。また、閣議決定に出てきた中身は、教育委員は4年の任期だけれども、教育長については3年の任期にするということになっています。特にうたわれているのが教育長の任命権と任免権で、首長に二つの権利を明確に担保するということになりました。それについての評価は僕としては任命した限り途中で任免するのは、任命した本人・首長の責任であって政治責任から言えば全然おかしいと思います。

それから、総合教育会議というのをつくることになりました。これが結局、妥協案として公明党なんかとの妥協案として出てきた話です。

市長と教育委員会、ここで言えば5人。それに学識経験者なんかを含めて、多分10人くらいになるのかなと思います。それで予算とか基本方針とかを議論するということになるわけです。

アクションプランに書いた、予算について市長との、教育委員会から市長に対する予算要望とか、それをストレートにやる場所として、この総合教育会議を使うと考えれば、あっても良いかと思っています。

教育委員会を残すということについては評価できる。それから教育委員長と教育長を一本にするということについても機動性を担保するというイメージでも評価できる。任免権についても、任免権についても3年くらいであればやむを得ないかなと思っています。

それから総合教育会議は形式的にならないことを期待しつつ、教育委員会サイドとすれば予算要求なんかの場所として、あるいはもっと率直に首長との意見交換をする場所としては肯定的に評価してもいいのかなと思っています。

このことについて、少し議論していただければと思います。報告かたがた、そんなことを申し上げておきます。

今の報告について、御意見、御質問はございますか。

渡邊委員長

横田委員 文教との意見交換会、あのスイッチオンの話も出てきそうでしょうか。

教育部長
教育総務課長 可能性はありますね。冊子は配ってありますので。
教育委員さんの書いたコメントのあたりをまた見直しておいていただければ。

横田委員 ただこの前、山本委員さんが言っていたように、この教育委員会の会議の形骸化してるところがあるので、そのことが話題になるのか。

山本委員 法律的なこと、形式的なことを言われたら困ることもある。

横田委員 この会議でも、あのスイッチオンの中の一つ話題を取り上げてみんなで意見交換するとか、そういうことをやっていけば良いと思う。

横田委員 辻議員さんは、やっぱり不登校のことについては関心をもっている。一度サポートセンターに文教の方が全員集まってサポートセンターの説明をしたときに、辻議員さんが相当、やはり高校生の不登校については、大分話をされていました。

山本委員 先ほど、山本課長が言われたように、例えば中学校だと58人、こういう数字は私は知らなかったんです。
学校訪問に行ったときに一番引かかるのが不登校が多い学校です。だから私は学校へ行くと必ず不登校は何人くらいいるのですか、どのように対応していますかということは必ず聞いています。
教育委員としてどういうふうな状況で、学校がどんなに一生懸命、取り組んでいるということは、私は知っていることだったので、今までの登校、学校訪問とこの数字とが、何かつながったなという感じはします。
しかし愛知県が一番、なんていうか、ちょっと数字的には3.1%、東三が3.0%これは24年ですけど。24年でいうと田原は2.9、東三が2.56ということで、国は広い地域で田舎とかそういうのもあるので、田原はどちらかというとも都会化しているのかなという感じはしますけど。そういう数字しかわかりませんが、全体的に3%いるというか。

学校教育課長 中学校は多い。

山本委員 多いですね。なぜ多いかというのは横田委員がわかっていると思うのですが。昔から比べると増えていますね。

横田委員 増えています。不登校の認知の仕方によって替わってきますが増えていることは確で、それは何が原因かと言うと発達障害です。そこを理解してない親とか先生、周りの子どもが、ちょっとネックになってくるのが中学二年生。あそこで思春期のあそこらあたりで、周り自分と違うのだということがわかったときに出てくる。

山本委員 親への教育というのが必要な気がします。

横田委員 やはりスマホと同じで親への教育もしていかなければならないと思っているし、学校も動き出しています。

嶋津教育長 アクションプランにもずっと書き続けてきたし、文部省の報告にも

嶋津教育長
山本委員
金原委員
横田委員
渡邊委員長

渡邊委員長

ありますが、教育委員は非常勤なのです。非常勤の中で、あれもこれも知っているかということを追求されることは大変なことです。

文部省は、素人感覚が大事だという言い方でやってきました。

一年間で、日数でいうと90日くらいは出ていますね。

最初は、10月に13日出ました。

いじめだとか不登校は、僕は学校経験があるから話は出来ます。

他に、よろしいでしょうか。

(「なし」と言う者あり)

ないようですので、本日の議事は全て終了いたしました。御協力ありがとうございました。

これをもちまして、田原市教育委員会第4回定例会を閉会させていただきます。お疲れ様でした。

閉 会 午後4時54分